（1） すいか

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除 防除時期	RACコード	薬剤
1 つる割病 *Fusarium* *oxysporum* f.sp.*niveum* f.sp.*lagenariae*	1.ユウガオまたはカボチャを台木として接木する。 2.耐病性品種を用い、畑は５～６年、水田は２～３年輪作する。 3.石灰質肥料を施し、酸性を矯正する。 4.発病株を見つけたら、すぐに抜き取り、圃場外へ持ち出す。 5.ウリ類の連作は、つる割病を助長する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.土壌消毒方法はⅢ－14. 土壌病害虫の防除の項参照。 2.スイカのつる割病菌はメロン、トウガンを侵すが、その他のウリ類は侵さないと言われている。	植付前（土壌消毒）	－ － － － －	クロールピクリン ドロクロール ガスターード微粒剤 バスアミド微粒剤 （混）ソイリーン
		播種前（種子粉衣）	M3･1	（混）ベンレートＴ水和剤２０
2 炭疽病 *Colletotrichum* *orbiculare* *C.nymphaeae*	1.苗床の高温、多湿を避ける。 2.発病苗は本畑の伝染源となるので植えない。 3.ポリマルチや敷わらを行う。 4.窒素過多は発病を助長する。 5.不必要な側枝は早めに摘除し、通風、採光を図る。 6.連作を避ける。 7.被害茎葉は除去し、処分する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.ストロビーフロアブル、アミスターオプティフロアブルは浸透性を高める効果のある展着剤は薬害のおそれがあるので使用しない。	育苗期（２～３回） 本畑（発病前から７～10日おきに４～６回）	1 1 3 11 M1 M1 M3 M3 M3 M3 M4 M5 M5 M7 11･7 10･1 11･M5	トップジンＭ水和剤 ベンレート水和剤 スコア顆粒水和剤 ストロビーフロアブル キノンドー水和剤４０ ドキリンフロアブル ジマンダイセン水和剤 ペンコゼブ水和剤 ペンコゼブフロアブル アントラコール顆粒水和剤 オーソサイド水和剤８０ ダコニール１０００ ダコニール粉剤 ベルクート水和剤 （混）シグナムＷＤＧ （混）ゲッター水和剤 (混)アミスターオプティフロアブル
3 つる枯病 *Didymella* *bryoniae*	1.苗床の潅水過剰で多発生しやすい。 2.発病苗は本畑の伝染源となるので植えない。 3.ポリマルチや敷わらを行う。 4.排水を良好にする。 5.窒素過多は発病を助長する。 6.不必要な側枝は早めに摘除し、通風、採光を図る。 7.連作を避ける。 8.被害茎葉は除去し、処分する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.葉に発生するつる枯病を黒斑病ともいう。本病による葉枯れは炭疽病や褐斑細菌病と誤診されやすいので注意する。 2.茎の地際部ばかりでなく、かなり上方の各節に発生するので、散布に当たっては特に茎にかけるようにする。 3.ストロビーフロアブル、アミスター20フロアブルは、浸透性を高める効果のある展着剤は薬害のおそれがあるので使用しない。 4.トップジンMペーストは病患部を削り取ってから塗布すると効果的である。	育苗期（２～３回） 本畑（５月下旬から７～10日おきに４～６回）	1 2 2 3 7 11 11 M1 M3 M3 M3 M4 M5 M7 19 10･1 10･2 11･7 M5･40 M7･53 27･M3	ベンレート水和剤 ロブラール水和剤 スミレックス水和剤 スコア顆粒水和剤 アフェットフロアブル アミスター２０フロアブル ストロビーフロアブル ドキリンフロアブル ジマンダイセン水和剤 ペンコゼブ水和剤 アントラコール顆粒水和剤 オーソサイド水和剤８０ ダコニール１０００ ベルクート水和剤 ポリオキシンＡＬ水溶剤 （混）ニマイバー水和剤 （混）スミブレンド水和剤 （混）シグナムＷＤＧ （混）カーニバル水和剤 （混）フセキワイドフロアブル （混）カーゼートＰＺ水和剤
		発病初期	1	トップジンＭペースト
4 疫病 *Phytophthora* *cryptogea*	1.排水を良好にし、溝の潅漑水を茎葉にかけない。 2.敷わらまたはポリマルチをする。 3.高うねにして、浅植えする。 4.前年発病畑で使用した資材は消毒する。 5.連作を避け、４年以上の輪作とする。	発病前から	M3	ジマンダイセン水和剤

すいか

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除 防除時期	RACコード	薬剤
5 菌核病 *Sclerotinia Sclerotiorum*	1.ポリマルチや敷わらを行う。 2.花弁を除去する。 3.多発圃場では、収穫後湛水をして、土壌中の菌核を死滅させる。 4.連作を避ける。 5.被害果は除去し、処分する。 6.暖房機使用のハウスでは、暖房の切れたときも通風を続け、結露を防止する。	ハウス内防除（くん煙）	2 2	ロブラールくん煙剤 スミレックスくん煙顆粒
6 うどんこ病 *Sphaerotheca fuliginea*	1.生育後半には老化した下葉を摘除し、通風と採光を図る。 2.収穫後の植物残さは圃場に放置せず、早めに処分する。 3.肥切れを避ける。	発生初期	3 3 3 9 19 － M2 M7 M10 M10 NC U6･3 11･7 7･M5 M7･53 NC･M1	トリフミン水和剤 ルビゲン水和剤 ラリー水和剤 フルピカフロアブル ポリオキシンＡＬ水溶剤 サンヨール イオウフロアブル ベルクート水和剤 モレスタン水和剤 パルミノ ハーモメイト水溶剤 （混）パンチョＴＦ顆粒水和剤 （混）シグナムＷＤＧ （混）ベジセイバー （混）フセキワイドフロアブル （混）ジーファイン水和剤
		ハウス内防除（くん煙）	3	トリフミンジェット
7 褐色腐敗病 *Phytophthora capsici*	1.排水不良地を避けて作付けする。 2.敷わら、ポリマルチを行う。 3.圃場の排水に努め、排水不良地では高畦とし、敷わらも厚くする。 4.カボチャ､キュウリ､ピーマン等の疫病菌と同種なのでこれらの作物との輪作は避ける。 5.酸性土壌で発生しやすいので、石灰を施用する。	発生初期	21 27･M3	ランマンフロアブル （混）カーゼートＰＺ水和剤
8 緑斑モザイク病 （ＣＧＭＭＶ）	1.無病種子を使う。 2.病苗は早く発見し、処分する。 3.健全な苗を植える。 4.汁液による接触伝染が激しいから、接木、芽かき、整枝に当っては第３燐酸ソーダ液で資材、履物等を消毒する。 5.発病地にはウリ類を３～４年栽培しない。 6.発病株は抜き取って土中深く埋める。 7.遅く発病したものは作業時にふれないようにし、手入れは最後にする。 8.種子、土壌、接触によって伝染し、アブラムシ類、アザミウマ類、コナジラミ類では伝染しない。			
9 アブラムシ類 （モザイク病 ＣＭＶ）	1.苗床及び本圃周辺の罹病植物を取り除く。 2.圃場の周辺に防虫ネットを高さ1.3ｍぐらいにはったり、シルバーポリマルチ、シルバーテープをするとアブラムシ類の飛来が少ない。 3.発病株は早めに処分する。 4.圃場とその周辺の除草に努める。 **〈薬剤使用の特記事項〉** ●育苗期 アルバリン粒剤、スタークル粒剤はワタアブラムシでの登録である。 ●発生初期 1.ハチハチ乳剤はコナジラミ類にも登録がある。	育苗期	1A 4A 4A	バイデートＬ粒剤 アルバリン粒剤 スタークル粒剤
		育苗期後半	9B	チェス粒剤
		育苗期後半～定植当日	28	ベリマークＳＣ
		定植時	4A 4A 4A 4A	アドマイヤー１粒剤 モスピラン粒剤 ベストガード粒剤 ダントツ粒剤
		発生初期	3A 3A 3A 3A	アディオン乳剤 アグロスリン水和剤 アグロスリン乳剤 サイハロン乳剤

農薬の使用方法や注意事項はラベルで確認する

すいか

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除		
		防除時期	RACコード	薬剤
		発生初期	3A	スカウトフロアブル
			3A	マブリック水和剤20
			3A	アーデント水和剤
			3A	トレボン乳剤
			3A	トレボンEW
			4A	アドマイヤー水和剤
			4A	アドマイヤー顆粒水和剤
			4A	モスピラン顆粒水溶剤
			4A	ベストガード水溶剤
			4A	バリアード顆粒水和剤
			4A	アクタラ顆粒水溶剤
			4A	アルバリン顆粒水溶剤
			4A	スタークル顆粒水溶剤
			4A	ダントツ水溶剤
			4C	トランスフォームフロアブル
			9B	コルト顆粒水和剤
			21A	ハチハチ乳剤
			23	モベントフロアブル
			29	ウララD F
			ー	サンヨール
			3A･15	(混)ビリーブ水和剤
		ハウス内防除(くん煙)		モスピランジェット
10 オオタバコガ	1.ハウス開口部を防虫ネット(4㎜目合以下)等で被覆すれば､飛来､産卵を防止できる。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.発育が進むと薬剤の効果が極端に落ちるので早めの防除を心がける。 2.防除した後も成虫が飛来産卵するので、常に幼虫の発生に注意する。	若齢幼虫期	5	ディアナSC
			15	カスケード乳剤
			28	フェニックス顆粒水和剤
			UN	プレオフロアブル
11 ワタヘリクロノメイガ (ウリノメイガ)	1.ハウス開口部を防虫ネット(4㎜目合以下)で被覆し、成虫の飛来、産卵を防止する。	若齢幼虫期	28	フェニックス顆粒水和剤
12 タネバエ	1.成虫は有機物の腐敗臭に誘引されるので注意する。 2.レタス、ハクサイ、キャベツ等の残根を処分する。	播種時または植付時	1B	ダイアジノン粒剤3
13 ウリハムシ (ウリバエ)	1.シルバーポリフィルムによるマルチを行う。 2.飛び込み軽減のため、防虫ネット(2㎜目合以下)で苗を被覆する。	幼虫発生期	1B	マラソン乳剤
		成虫発生期	1B	マラソン粉剤3
			4A	モスピラン顆粒水溶剤
			4A	ダントツ水溶剤
14 ケラ	1.土地の乾燥を図り、未熟堆肥の施用を避ける。	播種時または植付時	1B	ダイアジノン粒剤3
15 ハダニ類	1.圃場内や周辺の雑草防除を徹底する。 2.作物残さを放置すれば、ハダニの増殖源となるので、早めに処分する。 3.収穫終了後、夏期ハウスを密封して、1～2週間太陽熱で残さを処理する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.サンマイトフロアブルはアブラムシ類にも登録がある。	発生初期	21A	ダニトロンフロアブル
			21A	ピラニカEW
			21A	サンマイトフロアブル
			10B	バロックフロアブル
			20B	カネマイトフロアブル
			25A	ダニサラバフロアブル
			33	ダニオーテフロアブル
			5･-	(混)ダブルシューターSE
		ハウス内防除(くん煙)	3A	マブリックジェット

農薬の使用方法や注意事項はラベルで確認する

すいか

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除 防除時期	RACコード	薬剤
16 ミナミキイロアザミウマ	1.苗で本圃に持ちこまない。 2.侵入防止対策のとれているハウスでは、青色粘着トラップを吊るすことにより、密度を下げることができる。 3.シルバーマルチをする。 4.ハウス栽培では収穫終了直後に圃場の地表面を透明フィルムで全面被覆し（夏場の晴天日であれば１日処理が目安）、地温を50℃以上に上げると、土中の蛹を死滅させることができる。 5.ハウス開口部に防虫ネット（１㎜目合以下）をはり、成虫の飛来を軽減する。 6.周辺雑草及びハウス内の雑草処理を徹底する。 7.被害植物や雑草は除去後、土中に埋めるか、ビニール等で密封し、半月程度放置する。	鉢上時～育苗期後半	28･4A	（混）ミネクトデュオ粒剤
		育苗期	1A	バイデートＬ粒剤
		育苗期後半～定植当日	23	モベントフロアブル
		定植時	4A	アドマイヤー１粒剤
			4A	ダントツ粒剤
		発生初期	3A	アグロスリン乳剤
			4A	アドマイヤー水和剤
			4A	アドマイヤー顆粒水和剤
			4A	モスピラン顆粒水溶剤
			5	ディアナＳＣ
			6	アファーム乳剤
			15	デミリン水和剤
			15	カスケード乳剤
			15	アタブロン乳剤
			21A	ハチハチ乳剤
			23	モベントフロアブル
			UN	プレオフロアブル
			3A･15	（混）ビリーブ水和剤
			5･-	（混）ダブルシューターＳＥ
		ハウス内防除（くん煙）	4A	モスピランジェット
17 センチュウ類 ネコブセンチュウ ネグサレセンチュウ	1.水田に転換可能な畑では、２～３年に１回の割合で水田に戻す。 2.苗からの持ち込みを防止するるため、センチュウ類や病害のおそれのない用土で育苗する。 3.施設では、夏期に１か月間太陽熱利用による消毒を行う。 **〈薬剤使用の特記事項〉** ●植付前 1.土壌消毒方法はⅢ－１４．土壌病害虫の防除の項参照。 2.ＮＣＳ、キルパーはネコブセンチュウに登録がある。 ●定植前 1.バイデートＬ粒剤はネグサレセンチュウ及びネコブセンチュウに登録がある。 2.ネマトリンエース粒剤はネコブセンチュウに登録がある。 ●発生初期 1.ガードホープ液剤はネコブセンチュウに登録がある。	植付前（土壌消毒）	8B	クロールピクリン
			8B	ドロクロール
			8B	クロルピクリン錠剤
			8F	キルパー
			8F	ＮＣＳ
			8A･8F	（混）ディ・トラペックス油剤
		定植前	1A	バイデートＬ粒剤
			1B	ネマトリンエース粒剤
		発生初期	1B	ガードホープ液剤